

# ライフサイエンス



## 医療・健康分野 これまでの成果と今後の取り組み

これまでの改革の主な成果	今後の取り組み
<ul style="list-style-type: none"><li>・地域医療連携推進法人 (地域医療法人などの一体的経営。 効率的医療介護サービスの提供)</li><li>・患者申出療養 (国内未承認医薬品などを保険外併用 療養として使用可能に)</li><li>・先駆け審査指定制度 (画期的な医薬品について承認審査での優先的な取り扱い)</li><li>・先進医療(再生医療、医療機器)の評価の迅速化・効率化</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・医療のICT化 (重複審査・投薬防止のため2020年までに大病院での電子カルテ普及率を90%に、18年度までに地域医療情報連携ネットワークを全国普及)</li><li>・個人番号カードを健康保険証として利用(17年7月以降) 電子お薬手帳の全国普及(18年目途)</li><li>・個人の医療健康情報などを委託によって管理する情報管理の「代理機関」制度の創設</li><li>・外国人患者の受け入れを行う医療機関を「日本国際病院(仮称)」として構成し、海外に発信</li><li>・外国人患者の受け入れをワンストップサポート (首相官邸「これまでの改革の主な成果と新たな取り組み」から作成)</li></ul>

## 成功ビジネスモデル 横展開を強化

次世代ヘルスケア産業の創出支援として、地域版次世代ヘルスケア産業協議会の設立を促進し、それらをネットワーク化する。地域で成功したビジネスモデルなどの横展開を強化する。併せて地域経済活性化支援機構(REVIC)などと連携して「地域ヘルスケアビジネス事業化プラットフォーム

ライフサイエンスは生活に欠かせない  
(東ソー提供)

医療などの分野における番号制度の導入ではセキュリティの徹底的な確保を図り、マイナンバー制度のインフラを生かして医療分野などに番号制度を導入(18年から段階的運用開始、20年までに本格運用)。地域の医療機関間で情報共有や研究開発促進、医療の質向上に向けて、具体的制度設計、固有番号

オーム(仮称)を創設し、投資前段階からの人材育成を含むビジネスモデルの作り込みなどを促進する。医療の国際展開では外国人患者の受け入れなどをワンストップでサポートし、外国人患者の受け入れに關し意欲と能力のある国内医療機関を「日本国際病院(仮称)」として海外に発信することなどで、外国人患者の集患などに取り組む。

医療などの分野政策へのデータ活用の一層の促進では、医療介護データの政策活用促進に向けた具体的施策と実施スケジュールを盛り込んだ「医療等分野データ利用プログラム(仮称)」を15年度中に策定する。

地域医療情報ネットワーク／電子カルテの普及促進では18年度までに実現し、地域医療情報ネットワークの全国各地の普及を行う。20年度までに地域医療で中核的な役割を担うことが特に期待されている400床以上の一般病院における電子カルテの全国普及を90%に引き上げる。こうした目標を達成するため地域医療介護総合確保基金による病床の機能分化と連携のためのネットワーク構築費用の支援策などを講じ、次期診療報酬改定時に診療報酬におけるICT活用した医療情報連携評価の在り方を検討する。

## 問題

目の前の命を救えるか。



突然の心臓停止。

1分ごとに救命率が7～10%下がるというデータがあります。

旭化成は救急医療分野へ進出。AEDをはじめ、様々な技術を進化させてゆきます。

全国の公共施設に普及しつつあるAED。

それは、停止してしまった心臓の心電図を解析し、必要に応じて電気ショックを与える医療機器である。

旭化成は、米国の大手救急医療会社ゾール・メディカル社とともに、AEDをはじめとする救急医療機器の開発・販売をスタートした。

心停止で倒れた人に対して最も大切なのは、まず「胸骨圧迫」である。気道を確保し、胸の中央を両手で力強く、一定のリズムで押し続ける。

この初動を素早く行うことで、救命率は2～3倍上がる。新しいAEDは、音声で正しい装着と有効な胸骨圧迫を誘導し、

一般の人でも救命処置が行えるようになっている。誰かが倒れた時助けられるのは、救急隊員ではなく、たまたまその場に居合わせた人である。

進んで手を差し伸べる勇気をサポートし、ともに適切な処置を行える機器をつくってゆきたいと思う。

昨日まで世界になかったもの「進化した救急医療機器」。詳しくは [www.asahi-kasei.co.jp](http://www.asahi-kasei.co.jp)

昨日まで世界になかったものを。

AsahiKASEI

## 健康・医療 多様化するニーズ

ライフサイエンスは私たちの生活の営みに欠かせない。少子高齢化社会を迎え食料の安定した供給と安全性の確保、健康や医療の高度化の課題がある。企業はライフサイエンス市場の成長を視野に、国内外でさまざまな展開を加速させライフサイエンスを支えている。

## ICT化を徹底推進

## 地域経済のけん引役に

文部科学省のポータルサイト「ライフサイエンス広場」によると、ライフサイエンスは生物が営む生命現象の複雑かつ精緻なメカニズムを解明することで、その成果を医療・創薬の飛躍的な発展や食料・環境問題の解決など国民生活の向上と国民経済の発展に大きく寄与する分野としている。

文科省では理化学研究所や科学技術振興機構、大学などの機関における基礎的、先導的な研究の推進や研究支援業務などを実施し、ライフサイエンスの総合的な推進に努めている。こうした中、2015年6月30日に政府は安倍晋三

今回の成長戦略は情報のセキュリティを確保し5カ年間で集中して取り組む期間として、医療分野における情報通信技術(ICT)化を推進することとしている。

地域医療などの分野では現場における医療情報を共有することで、検査や処方などの重複を防ぎ、国民負担軽減を図る。匿名化した医療などのビッグデータを活用し、医療や介護と密接に連携した健康・予防関連サービスを活性化させる。

診療においても医師らが接する情報量と質を向上させるとともにサービスも充実し、国民の利便性を上げていく。

医療や介護政策に関する質の高い情報分析やその結果を提供することができるようになり、さらに世界の医療分野などのデータベ

ーを生かすことで医薬品などの安全対策の充実や研究開発の飛躍的な促進も期待ができる。

医療や介護政策に関する質の高い情報分析やその結果を提供することができるようになり、さらに世界の医療分野などのデータベ